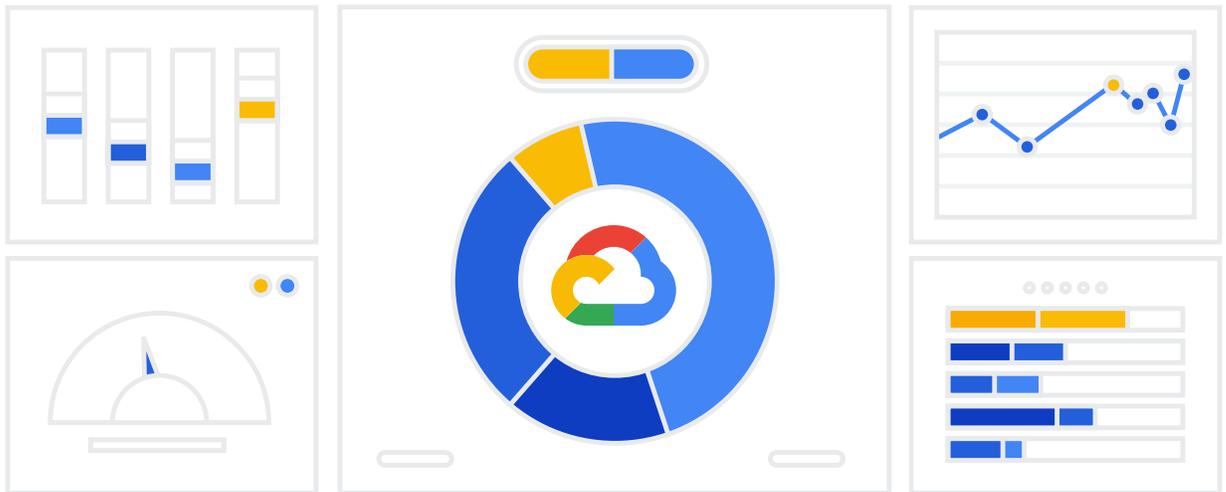




Google Cloud ホワイトペーパー
2020年6月

Google Cloud で オペレーション 効率の問題を 解決



Google Cloud

オペレーション効率が今重要な理由

多くの企業は、今後の道を切り開く方法を検討するにあたり、リソースの割り当て方法について厳しい決定を下す必要があると考えています。ほとんどの場合、重要なのは単に費用を削減することではありません。たとえ資金が限られていても、ビジネスの継続性を維持し、寿命を延ばすために、優先するプロジェクトを把握することが重要となります。

しかし、これは口で言うほど簡単ではありません。どのプロジェクトが適切なビジネス成果と費用効率を実現するかを評価すると、次のような一連の課題が見えてきます。

- **予測不可能なビジネス状況** - 企業は存続、繁栄するため、劇的に変化する要件に対応する必要があります。IT チームはイノベーションを推進するために、発生する要件に対処するのに必要なアジリティとスケーラビリティを提供しながら、市場投入までの時間を短縮するソリューションを必要としています。
- **新しい投資ニーズ** - 企業は、新しいビジネスモデルに適応すると同時に、オフィス外の場所から高い生産性を発揮するのに必要なツールをチームに提供する必要があります。IT チームは、ビジネスの存続とワークフォースの生産性を確保するために、予算に含まれていなかったプロジェクトを優先する必要に迫られています。
- **限られた可視性と制御** - すべての企業が、費用を削減すべき場所や方法、または他の戦略的領域に再投資するかどうかに関して適切な意思決定を行うために必要な IT 支出の全体像を把握しているわけではありません。IT チームは、費用とリソースの最適化における当て推量を排除し、予算超過のリスクを軽減する堅牢なガバナンスも提供する、きめ細かい可視性とインテリジェントなサービスを必要としています。

現在のビジネス状況では、投資に優先順位を付けて費用を最適化できるように、事実、知識、ベストプラクティスを活用することが不可欠です。

現在のビジネス状況では、**事実、知識、ベストプラクティス**を活用することが不可欠。

このホワイトペーパーでは、Google Cloud のお客様が投資に優先順位を付けてオペレーション効率を高めている主な分野の概要と、Google Cloud がそのために提供しているさまざまなサポートについてご説明します。

以下に紹介する Google Cloud のオペレーション効率に関するベストプラクティスをお読みください。

- Anthos を採用してアジリティと IT 費用削減を実現する
- ERP 投資のアジリティとリターンを向上させるために SAP を Google Cloud に移行する
- 費用のかかるハードウェアの更新を回避し、オンプレミスインフラストラクチャの費用を削減するために VM をクラウドに移行する
- データウェアハウスをモダナイズして、スケーラビリティと高度な分析へのシームレスなアクセスを手に入れる
- オンプレミスの Apache Hadoop クラスタを移行して、より簡単で費用対効果の高い管理を実現する
- 費用対効果の高いスケーラブルな Bare Metal Solution を使用して、クラウドで特殊なワークロードを実行する
- Windows ワークロードを移行して、アジリティを高め、オンプレミスへの投資を減らす
- メインフレーム環境からプロセスをオフロードし、最新のアーキテクチャを採用して、スケーラビリティと費用効率を実現する
- AI を応用して顧客に迅速に対応する
- データセンターを超えて
- 可視性と管理を向上させるために課金管理と費用管理ツールを使用する
- チームの共同作業の方法を変革する



現在の費用を最適化し、クラウドでより アジャイルでスケーラブルな将来を計画する

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) の影響により、多くの企業が IT ランドスケープの利点と限界に注目するようになりました。こうした企業の多くは、将来の計画を立てる際に限られたリソースで新たなビジネスの現実のニーズを満たす方法を検討する必要に迫られます。

これは、特にレガシー インフラストラクチャに過度に依存している企業の IT に該当する課題です。最近の McKinsey の調査¹では、レガシーシステムが企業の IT 支出の 74% を占め、アジリティを妨げていることがわかりました。オンプレミスのワークロードをクラウドに移行するなど、IT を根本的に変革することで、費用を削減し、アジリティを高め、ROI を向上させることができます。モダナイゼーションにおける課題は、企業の規模や業界によって異なります。クラウドには多彩なオプションがあり、VM、データウェアハウス、メインフレーム全体のいずれから始めても、各自のタイムラインにあわせて柔軟に移行できます。

Anthos を採用してアジリティと IT 費用削減を実現する

先行きが不透明な今、変化を乗り越え、それを利用するためのアジリティと柔軟性を生み出すアーキテクチャが必要です。このニーズに応えるため、新しいコンテナベースの「クラウド ネイティブ」ツールとサービスが登場していますが、企業にとって必要なのはこのようなテクノロジーを熟知し、かつ信頼できる会社のソリューションです。こうしたソリューションは、インフラストラクチャを変更せずに導入を開始できるため、拡大するハイブリッド クラウド環境全体でアプリを大規模に開発、保護、管理できます。



¹ McKinsey Digital, 『Unlocking business acceleration in a hybrid cloud world』、2019年8月

Anthos は Google Cloud が提供する、ハイブリッドとマルチクラウド環境向けのアプリケーションモダナイゼーションプラットフォームです。オンプレミスとパブリッククラウド双方におけるアプリのモダナイゼーションの簡素化と促進を目的としており、先進のオープンソーステクノロジーをベースに統合、パッケージ化した一連のクラウドネイティブツールとサービスが含まれています。Anthos は、ライセンスとトレーニングの費用を削減し、開発速度と運用チームの効率向上に役立ちます。Forrester Research は、Anthos の総経済的利益は 3 年間で 1,530 万~4,280 万ドルに上るとしています。詳細については、Forrester の [New Technology Projection: The Total Economic Impact of Anthos](#) レポートをご覧ください。

SAP を Google Cloud に移行して ERP 投資のアジリティとリターンを改善

SAP は、企業で最もビジネスクリティカルなアプリケーションの一つであると同時に、最も費用がかかるものでもあります。現在の市場環境において、消費者製品、小売、流通などの業界の企業は、特に e コマースとサプライチェーン分析において SAP システムにこれまで以上に依存している一方で、スケーラビリティと同時実行の制約に直面しています。また、障害復旧、テスト、開発などの本番環境でないワークロードの移行により、実際に使用するときにのみ料金を支払うようにするなど、費用削減の機会を求めている組織もあります。

クラウドに移行すると、こうした課題をすべて解決する方法が手に入り、ビジネスのアジリティを向上させるための道が開けます。多くの場合、SAP インフラストラクチャの Google Cloud への単純なリフト&シフトは、わずか 6~8 週間で完了できます。また、SAP のような SoR をクラウドに移行するにあたり Google Cloud のアプローチを利用することにより 3 年間の運用費用を 46% 削減することができます²。Google Cloud では、[Cloud Acceleration プログラム](#)も提供しています。このプログラムは、無料の IaaS を提供し、SAP システムを Google Cloud に移行するためのパートナーサービスへの支払いをキャッシュバックします。つまり、本番環境で稼働する準備が整うまで支払いは始まりません。[SAP 移行戦略の詳細をご覧ください](#)。



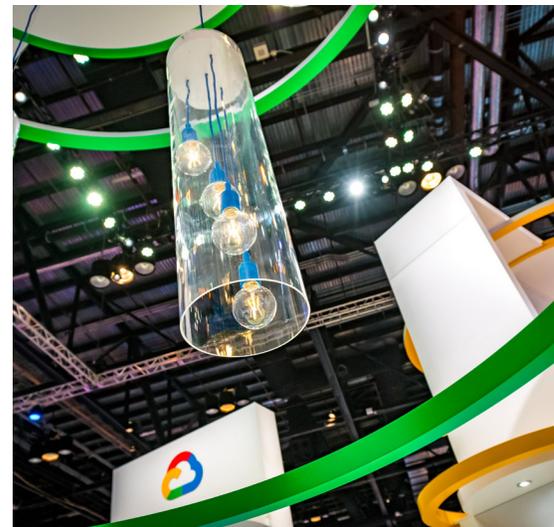
VM をクラウドに移行して、費用のかかるハードウェアの更新を回避し、オンプレミス インフラストラクチャの費用を削減する

クラウドは、費用効率やマネージド サービスへのアクセスから、よりアジャイルな開発まで、企業に豊富なメリットをもたらします。さらに、独自のデータセンターの所有または運用、仮想化レイヤーの追加費用発生を避けることから生まれる、費用上のメリットがあります。しかし、多くの企業は VM の移行プロセスに困難を感じています。パートナーのツールによる [クラウドへの移行の費用対効果](#) をご確認ください。移行のためのシンプルな戦略の作成に役立ちます。

移行の準備が整ったら、2 つの簡単な方法で VM を Google Cloud に取り込むことができます。まず、純粋に VMware 上の仮想マシンをリフト&シフトする場合、新しい Google Cloud VMware Engine を使用して Google Cloud のフルマネージド VMware 環境に移行できます。これは、クラウドへの移行のメリットを理解していても、移行が難しいと考えている企業にとって適したオプションです。結局のところクラウドへの移行は、単にアプリケーションを移行するだけでなく、障害復旧、バックアップ、そしてセキュリティ ポリシーやモニタリングなどの変更を移行することなのです。[Google Cloud VMware Engine](#) サービスを利用することで、オンプレミスと同様に、VMware をクラウドでネイティブに実行できます。

このソリューションにより、移行に際して既存の VMware ベースのワークロードをリファクタリングすることなく、パフォーマンス、スケーリング、セキュリティにおけるクラウドのメリットを活用できます。Google Cloud を使用すると、VMware 環境を数分でプロビジョニングし、大きな変更を加えることなく VMware ベースの環境を移行できます。Google Cloud で提供される大規模な管理、ネットワーキング サービス、オペレーティング プラットフォーム、バックエンド インフラストラクチャを活用できます。[Google Cloud VMware Engine の詳細をご覧ください](#)。

VM を移行して Google Compute Engine で直接実行するには、[Migrate for Compute Engine](#) をお試しください。追加費用なしで利用可能なプロダクトであり、VM をオンプレミスまたは他のクラウドから直接 [Compute Engine](#) に移行することで、すばやくスムーズな移行を実現できます。



Google Cloud VM は、秒単位で課金され、初期費用や契約解除料金はなく、ニーズが拡大するほど節約額が大きくなります。Google Cloud 上の VM は、アプリケーションに応じて自動で推奨サイズが提示され、カスタムマシンタイプも用意されているため、ニーズにぴったり適合するうえ、起動にかかる時間はわずか数秒です。また、VM を Compute Engine で実行すると、後日コンテナへのモダナイゼーションが容易になります ([Migrate for Anthos](#) を使用して Google Kubernetes Engine で実行するなど)。

無料で[クラウド移行費用の見積もり](#)を行えます。[Migrate for Compute Engine](#) と [Migrate for Anthos](#) の詳細もご覧ください。

データ ウェアハウスをモダナイズして、スケーラビリティと高度な分析へのシームレスなアクセスを手に入れる

IDC³によると、2018 年に 33 ZB だったデータ量は 2025 年までに 175 ZB に増加する見込みです。バッチ処理パラダイム向けに構築された Teradata などのレガシー データウェアハウスは、今日のデータの急増に対応するように設計されておらず、高度な分析や迅速かつ効率的なスケーリングを行うように最適化されていません。また、購入や維持に非常に費用がかかるうえ、容量が不足しやすく、ビジネス分析の需要の増加に対応できません。データウェアハウスのモダナイゼーションは、サーバーレス分析を使用してアジリティと効率性のすべてを**低費用**で向上させ、今日の増大する分析ニーズに対応を可能にします。

[BigQuery](#) などのクラウド データウェアハウスは、今日の環境で消費者の行動が急速に変化する中、より迅速にインサイトをもたらし、行動を推進します。これは、よりスマートで情報に基づいた意思決定を行い、ビジネスオペレーションの改善に役立ちます。また、Google Cloud のその他のスマート分析プラットフォームを利用することで、ビジネスにとって最も費用対効果の高い方法でさまざまなソースからデータを簡単に取り込み、AI や機械学習を通じて高度な分析に簡単に実行できます。

詳細については、[データウェアハウスの成熟度評価](#)をお試しください。また、モダナイゼーションをすぐに開始するには、[データウェアハウス移行サービス](#)の詳細をご覧ください。

2018 年に 33 ZB のデータ量が 2025 年までに 175 ZB に増加する見込み。

3 IDC、『The Digitization of the World From Edge to Core』、2018 年 11 月

さらに、企業は費用を抑えながらデータから最大の価値を引き出すために、データ インフラストラクチャを活用して、よりスマートな手法で人々とデータを結び付ける必要があります。これには、BI、分析、データ処理への新しいアプローチが必要です。Looker は BigQuery を活用する分析レイヤーです。これにより、組織は従来のレポートやダッシュボードの利用にとどまらず、ビジネスを変革し、データをよりスマートに利用できます。

組織がデータを効果的に使用すれば、業界におけるディスラプションの中で成功する可能性が **2.3 倍** になります (Forrester)。顧客維持の可能性は **6 倍** に、収益確保の可能性は 19 倍になります (McKinsey)。Looker と BigQuery を併用することにより、データチームはモダン データ プラットフォームの能力を活用して、データを必要とする人の手に渡すことができます。Looker と BigQuery を併用する組織では、費用の最適化、需要への対応、ビジネスの成果向上が可能になります。

一元化されたデータモデルを使用してインサイトをより迅速に取得し、アナリストのワークロードを 70% 削減する方法については、[Looker & BigQuery: A match made for the cloud](#) をご覧ください。

オンプレミスの Apache Hadoop クラスタを移行して、より簡単で費用効率の高い管理を実現する

Apache Hadoop や Apache Spark などの一般的なデータ処理ツールでは、費用、複雑さ、スケール、使用率のバランスに注意する必要があります。これは、本来重要なもの（データ）ではなく、ほとんどまたはまったく注意を払う必要がないもの（データを処理するクラスタ）に気を取られざるを得ないことを意味します。Google による Apache Spark と Hadoop のマネージド クラウド サービスである [Dataproc](#) は、このバランスの悪さを修正します。ESG の調査によれば、同じデータをホストする場合、Dataproc を使用すると、オンプレミス サーバーを使用するより **57% も低価格** です。

Dataproc は、Apache Spark、Apache Presto、Apache Hadoop クラスタなどのマネージド オープンソースを簡単かつ費用効果の高い方法で実行する、高速で使いやすいフルマネージド クラウドサービスです。

組織がデータを効果的に使用した場合:

2.3 倍

業界のディスラプションの中で成功する可能性

6 倍

顧客維持の可能性

19 倍

収益確保の可能性

Dataproc は管理がより簡単だけでなく、多くのお客様がビッグデータワークロードをクラウドに移行して、[1秒単位の料金](#)、アイドル クラスタの削除、自動スケーリング、[VMの柔軟性](#)などによる費用面のメリットを得ています。このような専用の存続期間が短いクラスタにより、データ エンジニア、データサイエンティスト、データアナリストは、大きな IT 費用をかけずにリソースのスピンアップとスピンドアウンを迅速に行い、分析の開発を加速できます。詳細については、[Dataproc 費用の最適化](#)をご覧ください。

費用対効果の高いスケーラブルな Bare Metal Solution を使用して、クラウドで特殊なワークロードを実行する

多くの企業は、既存の IT ランドスケープを中断させずに、すべてのレガシーアプリケーションをアップグレードすることなく、クラウドを採用したいと考えています。ほとんどのレガシー アプリケーションはクラウドで実行するように設計されていないため、これは難題となっています。Google Cloud は、必要なものを、好きな場所で、好きな方法で実行できる移行戦略の策定を支援したいと考えています。[Bare Metal Solution](#) は、Oracle Database などの特殊なワークロードを Google Cloud の近くで実行するのに必要なすべてのインフラストラクチャを取りそろえています。このインフラストラクチャは、低レイテンシで復元力の高い専用の相互接続環境で、すべてのネイティブ Google Cloud サービスに接続されます。Oracle ワークロードを Bare Metal Solution にデプロイすることにより、他のパブリック クラウド ベンダーと比較して、ライセンス費用を最大 50% 削減できます⁴。Bare Metal Solution で実行されるワークロードの多くは、厳しい CPU および I/O 要件を満たす必要があります。Bare Metal Solution は、最先端の x86 サーバーと高性能で復元力の高いストレージをベースに、費用対効果の高いスケーラブルなアーキテクチャを提供します。

詳細については、[Bare Metal Solution](#) をご覧ください。

多くの企業は、既存の IT ランドスケープを中断させずにクラウドを採用したいと考えている。

⁴ Bare Metal Solution のハードウェアは、Google のデータセンターに近いロケーション施設にあります。そのためお客様は、クラウド向けのライセンス費用を負担することなく、従来と同じオンプレミス ライセンス費用で、ハードウェアへの先行投資がいらぬなどクラウドと同様のメリットを活用できます。

Windows ワークロードを移行して、アジリティを高め、オンプレミスへの投資を減らす

多くの企業は、現在の費用を抑え、将来のニーズに対応するための方法を模索する中、レガシー プラットフォームを維持しながら、Microsoft ライセンスへの依存を減らしていくことに行き詰まりを感じています。これを解決するには、移行、最適化、モダナイゼーションを組み合わせた戦略が必要です。

Windows ワークロードを Google Cloud に移行することで、企業 IT のアジリティを高め、オンプレミスのフットプリントを低減できます。[Migrate for Compute](#) や [Migrate for Anthos](#) のようなツールを利用することにより、移行が容易になり、移行中のアップグレードも可能になります。

Google Cloud には、オンデマンド ライセンスに加え、既存のライセンスを Compute Engine 上での使用および運用できる柔軟性があります。[単一テナントノード](#) を使用し、専用ハードウェア上で構成可能なメンテナンス ポリシーを指定して実行することにより、オンプレミス ライセンスをサポートし、ワークロードの稼働時間とセキュリティを維持しながらホストレベルのライブマイグレーションを実施することができます。[SQL Server](#) と [Active Directory](#) のマネージド サービスも総所有コストの削減につながります。

Google Cloud は、Windows サーバーのコンテナ化、マネージドサービス、クラウド ネイティブの開発手法、マルチクラウドの準備など、モダナイゼーションへのオープンパスも提供します。[Google Kubernetes Engine \(GKE\)](#) を導入すれば、Anthos を使用してマルチクラウドやハイブリッド クラウドで Windows を運用するための準備を整えることができます。Microsoft ソリューションを Google Cloud で実行する利点の詳細については、ウェブセミナー「[Microsoft on Google Cloud: The path to reducing costs and gaining efficiency](#)」をご覧ください。

ライセンスへの依存を減らすには、移行、最適化、モダナイゼーションを組み合わせた戦略が必要。

Google Kubernetes Engine (GKE) を導入すれば、Anthos を使用してマルチクラウドやハイブリッド クラウドで Windows を運用するための準備を整えることが可能。

メインフレーム環境からプロセスをオフロードし、最新のアーキテクチャを採用して、スケーラビリティと費用効率を実現する

何十年もの間、企業はミッションクリティカルなワークロードを実行するにあたりメインフレームアーキテクチャに依存してきました。しかし、現在の環境では、多くの企業で収益の成長を費用の増加が上回り、それを運用する人材のプールが縮小しています。Google Cloud は、プログラマ的にメインフレームコードを分解し、リスクを最小限に抑えてビジネスを継続させつつプロセスをクラウドネイティブサービスにオフロードすることで、メインフレーム環境を最適化することができます。

Google では、G4 Platform のモダナイゼーションツールプラットフォームを利用して、メインフレーム環境全体の評価を実施し、組織のサービスを示す論理クラスタによるシステムの見え方を提示できるよう支援します。この結果に基づいて、モダンサービスアーキテクチャへのロードマップを作成し、クラウドへの移行計画を容易にすることができます。レガシー言語を JAVA や .NET などのクラウド対応プログラミング言語に変換したり、レガシーデータベーステクノロジーをオープンソースの高性能クラウドデータベーステクノロジーに変換したりして、アプリケーションをモダン環境に対応させることができます。さらに、自動データ移行によってメインフレームデータを簡単に移行してその価値を引き出し、データ分析とデータウェアハウジングにおける新しい革新的なユースケースを推進できます。詳細については、[Cornerstone Technology の買収でメインフレームの移行をサポート](#)をご覧ください。

AI を応用して顧客に迅速に対応する

業界全体が新しい予想外の顧客ニーズに対応するように移行している中、多くの組織で顧客の問い合わせやサポートリクエストが劇的に増加しています。AI の音声および言語理解モデルを応用することで、企業は簡単な質問に迅速に回答できるため、コンタクトセンターエージェントは複雑な顧客ニーズに集中できるようになります。Contact Center AI は、まさにそのために設計されており、チャットまたは電話による 24 時間年中無休のセルフサービスサポートを通じて最前線サポートを提供します。

多くの企業で収益の成長を費用の増加が上回り、それを運用する人材のプールが縮小している。

さまざまな組織で顧客の問い合わせとサポートリクエストが劇的に増加している。

新しいチャットボットベースのサービスを2週間以内に立ち上げて、より迅速かつ効率的に顧客に対応できます。特に、これは COVID-19 関連の重要な情報に関わる対応に役立ちます。詳細については、[Contact Center AI](#) をご覧ください。

データセンターを超えて

貴社が依存しているレガシースタックには、オンプレミス データベース、データレイクまたはデータ ウェアハウス、仮想マシンと物理マシンなどが多数含まれていることでしょう。しかし、今こそ多くの組織が既存のハードウェアに対する考え方から脱却するときです。レガシーアプリをリフト&シフトする、クラウド向けに書き換える、あるいはクラウド ネイティブのサーバーレス環境の上にゼロから構築する、とアプローチは複数ありますが、そのいずれにおいてもクラウド プロバイダーと緊密に連携することで、新しいクラウドベースのインフラストラクチャをより簡単に導入することができます。また、ここで説明したソリューションの多くがその過程で役に立ちます。詳細については、[Google Cloud エキスパート](#)にご相談ください。

可視性と管理を向上させるために課金管理と費用管理ツールを使用する

クラウドへの移行を完了した後は、費用の全体像を把握して、リソースの最適化のための管理を実施することで、効率を高めることができます。Google Cloud では、これを支援するために、課金と費用管理のための堅牢なツールを無料で提供しています。これにより、クラウドのデプロイに必要な可視性とインサイトを手に入れることができます。

請求レポートでは費用を一目で確認できます。また、ラベルを使用して費用の発生元の部門やチームを特定できるほか、独自のカスタム ダッシュボードでよりきめ細かい費用明細を可視化します。さらに、割り当て、予算、アラートを使用して、現在の費用の傾向を綿密にモニタリングし、今後の予測を立てることで過剰な支出のリスクを軽減することもできます。

クラウド プロバイダーと緊密に連携することで、新しいクラウドベースのインフラストラクチャをより簡単に導入できる。

クラウドへの移行を完了後は、費用の全体像を把握して、リソースの最適化のための管理を実施することで、効率を高めることができる。

Google Cloud の費用管理のツールとリソースの詳細については、[Cloud Billing のガイド](#)と[Beyond Your Bill 動画シリーズ](#)をご覧ください。また、ハンズオントレーニングの「[Google Cloud コストを理解する](#)」と「[GCP コストを最適化する](#)」もご確認ください。

さらに、[Cloud Monitoring](#) や [Cloud Logging](#) などの組み込みのクラウドオペレーションツールを使用すると、柔軟なアラートとレポートのオプションにより、パフォーマンス、稼働時間、状態の指標を表示できます。また、Cloud Monitoring は、AWS とオンプレミスのアプリとシステムをサポートしており、複数クラウドソースのデータを簡単に確認できます。

チームの共同作業の方法を変革する

クラウドへの移行は、オペレーション効率化の一部にすぎません。チームには、シームレスなコラボレーションを可能にし、どこからでも作業できるツールも必要です。しかし、オフィス外でチームのつながりと生産性を維持することは、これまで以上に困難になっています。これは多くの企業にとって、効果的なリモートワークとコラボレーションをサポートするためにクラウドベースのコラボレーションツールに迅速に移行する必要があるということを意味します。

[G Suite](#) は、ビデオ会議、グループチャット、ドキュメントコラボレーションのアプリが最初から組み込まれ、世界中の 600 万の企業や組織から信頼されている、完全なクラウドベースの生産性向上ソリューションです。これを使用すると、組織のワークフォース全体をリモートワークに迅速に移行できます。この前例のない時代にビジネスをサポートするために、Google は、プレミアムビデオ会議ソリューションである [Google Meet](#) の高度な機能を、2020 年 9 月 30 日まで、G Suite のすべてのお客様が無料で利用できるようにしました。これにより、最大 250 人が参加できる会議を主催したり、後で視聴できるように会議を記録したり、ドメイン内の最大 10 万人にライブストリームを提供したりすることが可能になります。

G Suite を採用すると、他にもメリットがあります。多くの企業が G Suite に切り替えることで、収益の増加、効率の向上、リスクの軽減、費用削減を実現しています。詳細については、[G Suite の総合的な経済的影響に関するホワイトペーパー](#)をご覧ください。または、[G Suite Business Value Calculator](#) をお試ください。

クラウドへの移行は、オペレーション効率化の一部にすぎない。チームには、シームレスなコラボレーションを可能にし、どこからでも作業できるツールも必要。

先を見据える

クラウドへの移行には非常に多くのメリットがありますが、多くの企業は依然としてそのプロセスに困難を感じています。それぞれの企業に独自のニーズと考慮事項があるため、各種のオプションの長所と短所を理解することが重要です。これを実現する優れた方法の一つは、Google Cloud を使用することです。これにより、以下のことが可能になります。

- ポートフォリオを評価する。
- クラウド ロードマップを作成する。
- プロセスのすべてのステップでサポートを受ける。
- 既存のサービスを再利用することで、新しい収益チャネルを推進しながら成功に備える。
- 長年にわたり効率的な最適化を行う。
- 移行中と移行後の両方でスタッフをサポートして、成功を実現する。

今後の成長を確実なものにできるよう、今すぐオペレーション効率の問題を解決しましょう。費用について Google Cloud アドバイザーとの相談が必要な場合は[お問い合わせ](#)ください。



Google Cloud